



特集

## ①高度救命救急センター25周年 ②中央内視鏡部の紹介

檜野崎燈台の水山(東牟婁郡串本町)

### CONTENTS

Topics ..... ●認知症疾患医療センターからのお知らせ ●軽度認知障害(MCI)についてご存じですか ●抗アミロイドβ(Aβ)抗体薬治療について ●耳鼻咽喉科・頭頸部外科病棟における摂食嚥下支援チームの関わり ●新たな治療法(整形外科手術分野)の国際的学術誌「European Spine Journal」への掲載について ●あなたの医療情報をスマートフォンで確認 青州リンクPHR機能「NOBORIアプリ」のご案内

Information ●シスプラチン腎毒性におけるトロンボモジュリンの役割を解明 ●青洲基金への寄附目録贈呈式を執り行いました ●免疫力を高める食事のすすめ ●がん患者・家族、県民のための公開講座のご案内 ●和歌山県立医科大学ががん専門医療人材(がんプロフェSSIONAL)養成プラン市民公開講座「がん専門医療人と地域との連携における課題」 ●マイナ保険証の利用について

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲(はなおかせいしゅう)が全身麻酔薬として用いた植物「曼荼羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

#### 【理念】

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

#### 【基本方針】

1. 患者さんとの信頼関係を大切にし、十分な説明と理解に基づく同意を得て、安全な医療を行います。
2. 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
3. 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
4. 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

# 高度救命救急センター 25周年を迎えて



## 旧医大病院から紀三井寺キャンパスへ

おかげさまで、和歌山県立医科大学附属病院高度救命救急センターは今年で25周年を迎えることができました。その歴史を振り返りますと、1989年3月に高度集中治療センターが篠崎正博先生(後に救急集中治療医学講座初代教授)を中心に設立されました。当時のセンターは旧医大病院(現在の済生会和歌山病院付近の敷地)内に位置していました。

1999年に医大病院が現在の紀三井寺キャンパスへ移転し、翌2000年には救命救急センターに指定されました。そして、2003年に、国公立大学病院および関西圏で初となる和歌山県ドクターヘリが配備され、2011年には高度救命救急センターに昇格しました。以来、和歌山県の救急・災害医療の中核として機能するとともに、医療従事者の育成や県民への救急医療啓発にも貢献してまいりました。



移転





## 院内外の医療関係者の支援もあり、全国5位の評価に

当センターの救急・集中治療医学の発展は、多くの医療関係者の支援により支えられてきました。特に、院内各診療科からの人的支援により、24時間体制の高度な救急診療が可能となっています。救急・集中治療医学講座所属の医師だけでなく、他科から派遣された医師の協力による高水準の診療が評価され、厚生労働省の公的評価において全国5位(99点)の高評価を得ています。

現在、センターには23名の救急科医師、22名の他科からの協力医師(専攻医含む)、19名の初期研

修医が所属し、ドクターヘリ診療、ER診療\*1、ICU\*2・病棟管理、災害医療を展開しています。2023年度の救急車搬送件数は5,970件、walk-in患者\*3数は5,491件、ドクターヘリ搬送件数は524件、緊急外科手術件数は258件に上り、全国トップクラスのハイボリュームセンターとして、県内外から重症患者を受け入れています。特にドクターヘリは2023年で運航20周年を迎え、累計出動件数はまもなく9,000件に達します。この間、皆様のご支援によって無事故運航を続けることができています。

※1 ER診療…救急外来における中等症から重症救急の患者の診療。  
※2 ICU…集中治療室。重篤な患者を治療する病院内の病棟。  
※3 walk-in患者…救急外来を独歩で受診した患者。

## チーム医療で地域の急性期医療に寄与

当科には、救急外来での診療スキルをはじめ、外傷外科学、集中治療医学、IVR、内視鏡診療といったサブスペシャリティを持つ医師が多数在籍しています。また、他診療科と緊密に連携しながら、質の高いチーム医療を提供できるコミュニケーション能力を備えた医師が揃っています。このような診療基盤を

もとに、今後も先進的かつ前衛的な救急・集中治療医療を展開し、地域の急性期医療のさらなる発展に寄与していく所存です。

これからも皆様のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 和歌山県立医科大学附属病院 中央内視鏡部の紹介

【中央内視鏡部長 北野 雅之】



## 中央内視鏡部の特徴

和歌山県立医科大学附属病院の中央内視鏡部では、消化器内科医・外科医、呼吸器内科医、救急医、看護師、放射線技師、臨床工学技士など多職種が協力し、診療を行っています。医師は消化器内視鏡学会指導医8名、専門医22名、その他医師30名が内視鏡診療に従事しており、メディカルスタッフは看護師31名に加えて、臨床工学技士8名、放射線技師2名が従事しています。特に、多数の臨床工学技士が、内視鏡を常時メンテナンスすることにより安全な内視鏡診療に貢献しております。

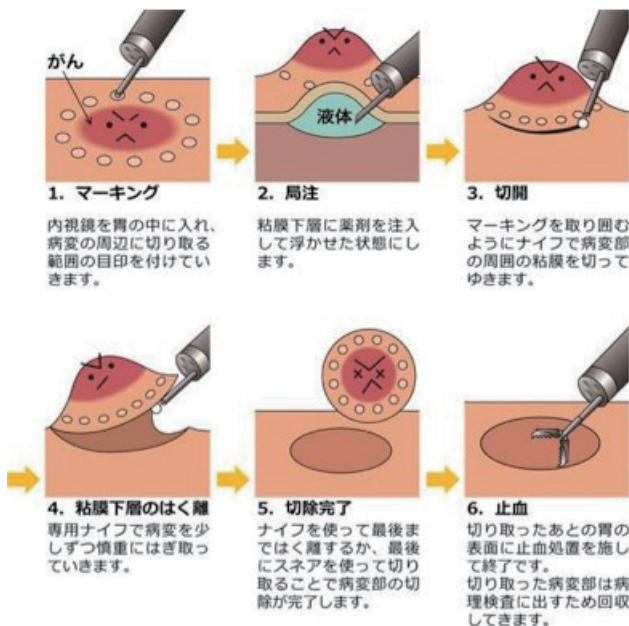
全国でも有数の内視鏡室面積(884㎡)を有し、合計10室の内視鏡室で運営しています。また、広い待合スペース、ナースステーションからリカバリールームを一望できるスペース、患者用トイレと更衣室の確保、個別の空調システム、内視鏡全検査の画像・部屋の様子をリアルタイムでモニタリングできるモニターカンファレンスルームなどを完備しており、安全管理、快適性に注力し、日々の診療を行っております。

## 診療内容

主に消化器疾患、呼吸器疾患に対する内視鏡診断・治療を行っており、2023年度では、通常内視鏡検査6,190件、特殊内視鏡検査3,303件、内視鏡治療1,954件の計11,447件の実績があり、毎年増加しております。軽微な疾患から重篤なものまで幅広く、市中病

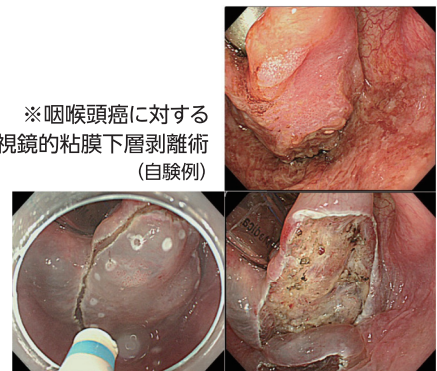
院からの紹介により受け入れています。また、一般的な内視鏡診療のみならず、最先端の診療技術を導入し、新しい内視鏡技術を研究・開発しております。以下より当院における最先端技術の一部(A~D)を紹介します。

### A 消化管癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術



消化管癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術は、内視鏡を用いて早期癌を切除する技術です。当院では、全国に先駆けて導入しており、その実施件数は全国トップクラスです。最近では咽喉頭癌や十二指腸乳頭部癌の切除など、他の中核病院ではあまり行われていない治療についても積極的に実施しております。

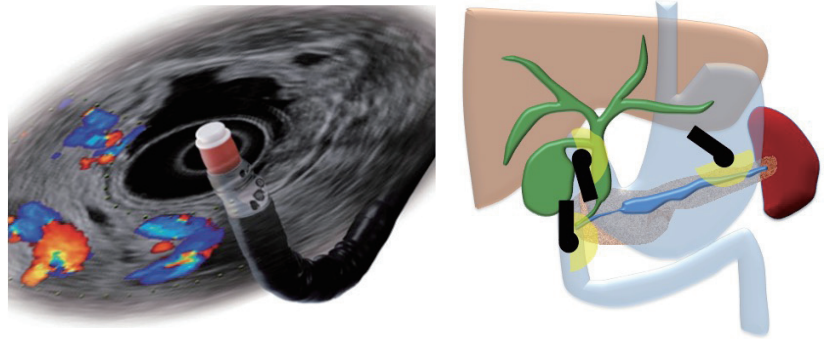
※咽喉頭癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(自験例)



▲内視鏡的粘膜下層剥離術の方法(オリンパス社 お腹の健康より引用)

## B 超音波内視鏡検査を用いた膵・胆道疾患の早期診断

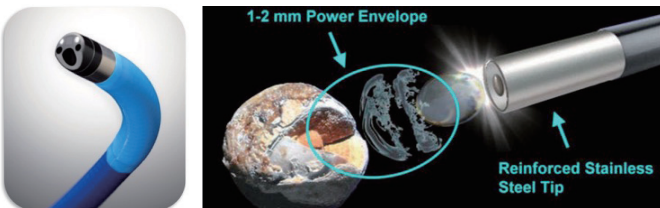
膵・胆道癌の早期診断に超音波内視鏡が重要な役割を果たしておりますが、当院では、世界に先駆けて高解像度の超音波内視鏡技術を研究開発し、膵・胆道癌の早期発見率の向上に貢献しています。また本年、当院が中心となり造影剤を用いた新しい検査法の研究開発・治験を実施しており、近い将来、実際の診療で使用されることが期待されております。



▲ 超音波内視鏡検査(オリンパス社 ホームページより引用) ※右図は著者作成

## C 胆道鏡と衝撃波を用いた胆管結石治療

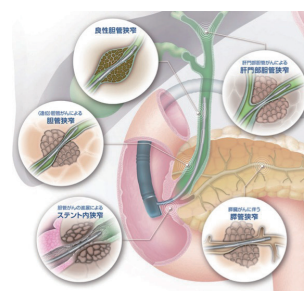
一般的に、十二指腸乳頭部から内視鏡を用いて胆管結石を除去する治療が行われていますが、結石が大きいと通常の治療では困難となります。その際に、胆道鏡を胆管の中へ挿入し、衝撃波を用いて胆管結石を砕く治療を積極的に行っております。この治療は、一般に他の中核病院では実施されておらず、他の病院で治療が困難であった胆管結石の患者さんは当院に紹介いただいております。



▲ 胆道鏡(左図)、電気水圧衝撃波結石破砕装置(右図)  
(ともにポストンサイエンティフィックジャパン社 ホームページより引用)

## D 胆道癌に対するラジオ波焼灼術

最近、胆道癌に対して免疫チェックポイント阻害薬を用いた新しい免疫治療が実施されるようになりました。そこで、当院ではこの治療に対し、臨床研究として、胆管癌をラジオ波で焼くことにより免疫治療の効果を増強させる内視鏡治療を実施しています。



この治療により胆道癌が小さくなり、胆道癌の患者さんの予後が改善することが期待されます。

▲ ラジオ波を用いた胆管の焼灼治療  
(ポストンサイエンティフィックジャパン社 ホームページより引用)

## 啓発活動

2017年より年一回、消化器内視鏡学会の共催のもと「きのくにライブ」と称した和歌山消化器内視鏡ライブデモンストレーションセミナーを開催し、関西地方を中心として、日本全国から約200名の先生方にご参加いただいております。上述しました当院における最先端の消化器内視鏡技術を紹介するとともに、日本を代表する消化器内視鏡医にも診断・治療法を披露していただき、情報共有することで消化器内視鏡技術を向上させるとともに、全国的な教育・発展に寄与しています。

また、当院は和歌山県唯一の特定機能病院、県立病院でもあり、関連病院とのネットワーク構築にも力を入れており、2019年には膵癌センターを設立し、より専門性の高い内視鏡医療に応えるための体制構築を進めています。その活動のひとつとして、膵癌を早期に診断するため

の「きのくにプロジェクト」と称する地域連携システムを構築し、和歌山県における内視鏡を用いた膵癌早期診断に努めております。



▲ 和歌山消化器内視鏡ライブデモンストレーションセミナー(著者撮影)

## 認知症疾患医療センターからのお知らせ

認知症疾患医療センターでは、認知症の専門医による認知症の鑑別診断や症状コントロールなどを目的とした診察(完全予約制)を行っております。

なお、2024年10月1日から、和歌山県立医

科大学附属病院では**当センターを含め、新患診察予約申し込みについてはFAXでの申込み**となっております。患者さんからのお電話での予約は承っておりませんので、予めご了承ください。

### 認知症疾患医療センター受診の流れ

#### 認知症疾患医療センターの受診予約

地域の医療機関から予約申込書(当院ホームページからダウンロード可能)と診療情報提供書を**予約センター(Fax:073-441-0805)にFAXにて送付し、受診予約をお願いします。**  
2024年度の診察曜日と担当診療科は、次の通りです。

**月曜日** 神経精神科

**火曜日** 脳神経内科

**金曜日** 脳神経外科

#### 受診当日の流れ

- ①ご家族または支援者と共に予約時間までに来院し、各診療科で受付
- ②ご家族または支援者には、認知症疾患医療センタースタッフによる生活状況の聴取
- ③ご本人には、臨床心理士による心理検査を実施
- ④必要に応じて医師指示により画像検査等を実施
- ⑤認知症専門医師による診察



#### 当センターでの診察後

※患者状態により複数回受診していただく場合があります。

- ①当センターより診察内容について、紹介元医療機関に情報提供
- ②地域の医療機関等にて継続加療



認知症疾患医療センターでは電話での専門医療相談を行っております。

#### 専門医療相談

- もの忘れや受診に関する相談
- 認知症に伴う行動・心理症状(BPSD)の対処方法
- 認知症の方とのかかわり方や生活の工夫
- お住まいの地域で認知症の診察を行っている医療機関の情報提供

←ぜひお電話でご相談ください。

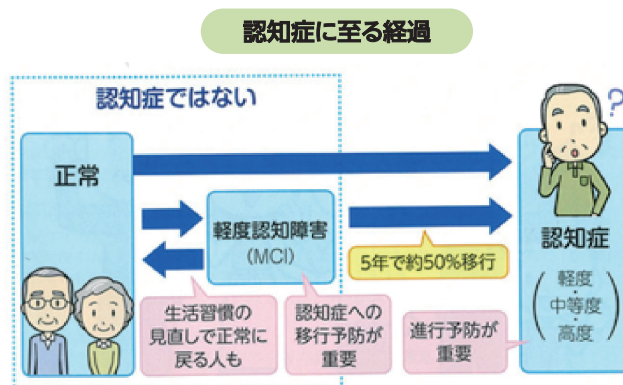
## 軽度認知障害 (MCI) についてご存じですか

軽度認知障害 (MCI) とは、記憶や注意などの認知機能のレベルが年相応よりも低下している状態で、正常とも言い切れない段階です。

症状としては、昔のことは記憶しており基本的な日常生活行動は自立できていても、新しく経験したことを記憶していなかったり、今まであった物事に対する興味が薄れたり、支障なくできていたことが上手くできなくなってきたりします。

ただ、症状は個人差があり、加齢による認知機能低下や他の疾患によっておこる認知機能低下との鑑別診断も必要です。

MCIの段階ではできることが多いため、一見して認知機能が正常な方と見分けがつかないこともあります。



## 抗アミロイドβ (Aβ) 抗体薬治療について

近年メディア等で取り上げられている抗アミロイドβ (Aβ) 抗体薬は、認知症そのものを治療する薬剤ではありませんが、MCIや軽度アルツハイマー型認知症に対し、進行遅延の効果が示されています。

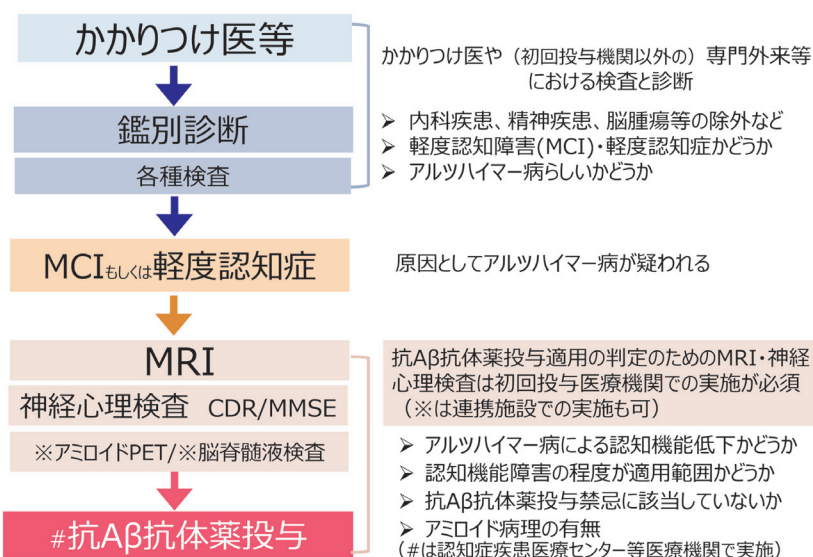
また、認知症進行遅延のためには、日常生活

習慣の改善や運動習慣を持つこと、社会活動への参加などが必要となります。

抗Aβ抗体薬治療は、厚生労働省から示されているガイドラインに基づき実施します。

当院で抗Aβ抗体薬治療をご希望される方は、次の内容にご注意ください。

### 抗アミロイドβ (Aβ) 抗体薬治療までの手順概要



※厚生労働省ホームページ(参考:抗アミロイドβ抗体薬治療までの手順概要)から引用

- 抗Aβ抗体薬治療の適応可否判定のため、複数の検査を受けていただきます。特殊な検査もあり、ご家族と共に複数回受診していただく必要があります。また、抗Aβ抗体薬治療が開始になった後も受診時にはご家族の付き添いが必要となります。
- 認知機能検査が抗Aβ抗体薬治療の適応範囲内であったとしても、他の検査結果で抗Aβ抗体薬治療の対象外となる場合もあります。

とうけい えんげ  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科病棟における摂食嚥下支援チームの関わり

当院の耳鼻咽喉科・頭頸部外科で行われる頭頸部癌の手術では、患者さんは術後に舌やのどに大きな影響を受け、食べる機能が阻害される例が多くあります。

そこで、このような頭頸部癌の術後患者さんを対象に、術後早期から食べる機能の回復に向けて多職種で取り組むために「摂食嚥下支援チーム」を立ち上げ、2024年6月から活動を開始しています。

チームは、看護師のほか、耳鼻咽喉科医師、歯科口腔外科医師、管理栄養士による多職種で構成しています。患者さんそれぞれに摂食嚥下支援計画書を作成し、週1回のカンファレンスを実施しています。そこでは、予測される摂食嚥下障害を確認し、患者さんに応じた嚥下に関する訓練・指導内容、提供する食事形態を話し合い、支援内容を決定しています。

これからも患者さんの持っている力を最大限に活かし、術後の機能回復の経過に応じて、「食べること」をチームで支えていきます。



新たな治療法(整形外科手術分野)の  
国際的学術誌「European Spine Journal」への掲載について



当院から派遣している整形外科医師を中心に、新宮市立医療センターで協働研究が行われ、その成果が脊椎外科分野で国際的に評価されている学術誌である「European Spine Journal」に掲載されました。

この協働研究では、腰部脊柱管狭窄症などの患者さんを対象に、脊椎内視鏡手術後の痛みを軽減するための新たな治療法を開発した結果、術後の回復を早める成果が示されました。この成果により、入院期間が短縮され、多くの患者さんの早期社会復帰に貢献できるようになりました。

当院では、和歌山県の基幹病院として、引き続き県内の医療機関と協力し、県民の皆さまに質の高い医療を届けるとともに、最先端の医療技術の発展と実践に全力を尽くして参ります。



あなたの医療情報をスマートフォンで確認  
**青洲リンク PHR機能「NOBORIアプリ」のご案内**

**青洲リンクPHR機能「NOBORIアプリ」について**

**NOBORI** 青洲リンクPHR\*機能「NOBORIアプリ」では、青洲リンクに登録しているご自身の検査結果やお薬などの情報をご自身のスマートフォンで見ることができます。(画像情報は表示できません)

また、ご家族の医療情報についてもご自身のスマートフォンで見ることができますので、スマートフォンを持たないご家族や遠方にお住まいのご家族の医療情報も確認できて安心です。

\*PHR(Personal Health Record)とは、個人が自身の医療や健康に関する情報を記録し、自身の手で管理するサービス。

**「NOBORIアプリ」で確認できること**

- 登録した医療機関で行った検査結果情報(一部の検査を除きます)、注射や点滴情報、お薬情報。
- スマートフォンを持たない家族や、遠方に住んでいる家族の医療情報。
- マイナポータルのお薬情報や医療費情報、特定健診結果。(マイナンバーカードの連携が必要です)

**「NOBORIアプリ」の登録方法**

登録無料

**1 アプリをインストール**



直近1年間の情報を無料で見ることができます。

また、有料プラン(100円(税込)/月)にお申し込みいただくと、2019年4月1日以降の情報をいつでも見ることができます。

**2 新規登録**



**3 医療機関を登録**



**6 医療情報を見る**



本人確認メッセージの表示が消え、しばらくすると医療情報が表示されます。

**5 青洲リンク参加同意書を記入**

青洲リンク参加同意書を記入していただきます。



※本人確認には、**診察券**と**本人確認書類**(保険証・運転免許証等)が必要です。

**4 本人確認のメッセージ表示**



下記の「青洲リンク事務局」にお越しください。



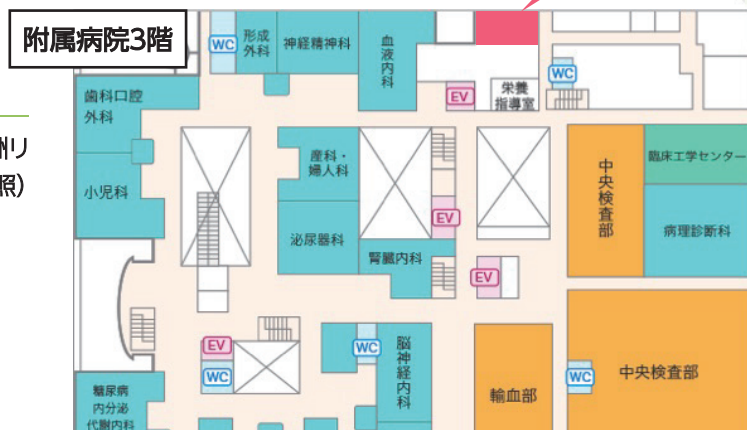
**「NOBORIアプリ」の  
お問い合わせ及び手続きについて**

「NOBORIアプリ」の利用手続き・本人確認は、青洲リンク事務局(附属病院3階 医療情報部内 ※右図参照)で行っています。

[受付時間] 平日 10:00~16:00

[TEL] 073-441-0858

[メールアドレス] info-ml@seishu-link.jp



## シスプラチン腎毒性におけるトロンボモジュリンの役割を解明

トロンボモジュリンは、血管内で血液が過剰に固まることを阻害する作用があり、臨床では播種性血管内凝固症候群の治療薬として用いられています。この薬剤は炎症を抑え、細胞を保護する作用があることも近年注目されています。シスプラチンは、様々な固形腫瘍の治療に汎用されている抗がん剤ですが、副作用としてしばしば腎機能障害を引き起こすことが知られており、治療継続可否や生命予後に大きな影響を与えます。シスプラチンは、腎臓で細胞を傷つける活性酸素種の過剰産生を誘発し、腎障害を引き起こすことも知られています。このたび、本学の法医学教室の研究チームでは、マウスを使った実験により、トロンボモジュリンがこの活性酸素種の過剰産生を抑え、シスプラチン誘発性腎機能障害に対して保護的に作用することを明らかにしました。



▲ 記者発表する山本助教(左)と近藤教授(右)

## 青洲基金への寄附目録贈呈式を執り行いました



▲中尾直之理事長(左)と和歌山支社長 村尾和義 様(右)

和歌山県立医科大学では、「地域を支え、世界に挑む」をモットーに更なる飛躍を図るため、和歌山県立医科大学青洲基金を設置しております。この度、明治安田生命保険相互会社様からご寄附をいただくこととなり、2024年9月27日に贈呈式を執り行いました。

今回のご寄附は、明治安田生命保険相互会社様による2020年に開始した「地元の元気プロジェクト」の取組の一環として、従業員がゆかりのある地域を指定して行う募金に会社の拠出を上乘せる「私の地元応援募金」によるものであり、これまでに県内22自治体にご寄附をされています。

本学では、この度の寄附金を有効に活用するとともに、県民のさらなる健康増進に向け、包括連携協定の締結について、協議して参ります。

## 免疫力を高める食事のすすめ

感染症の原因となるウイルスは冬の低温・乾燥を好むものが多いです。日頃の食事を見直し、冬に備えましょう。

①

### 腸内環境(細菌)を整える

免疫細胞の70%は腸内に存在しています。発酵食品に含まれる善玉菌と、善玉菌のエサとなる食物繊維により腸内環境を整え、免疫力を高めることができます。

**発酵食品** 納豆、キムチ、ヨーグルト、チーズなど

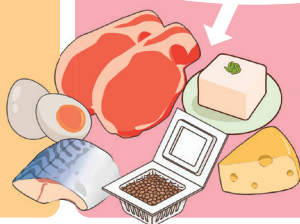
**食物繊維** 葉物野菜、ごぼう、きのこ、ライ麦パンなど

②

### 毎食タンパク質を取り入れる

体をつくる材料になる他、免疫細胞の材料にもなります。3食に分けて摂ることで効率良く利用されます。

肉、魚、卵、豆腐、乳製品など



③

### さまざまな栄養素をバランス良く

**ビタミンA** ウイルスの侵入経路である鼻粘膜の健康を維持(うなぎ、かぼちゃ、にんじんなど)

**ビタミンC** 抗酸化作用で体を酸化から守る(ブロッコリー、小松菜、菜の花、かんきつ類など)

**ビタミンD** 免疫細胞の活性化や腸粘膜のバリア機能に関わる(きのこ類、魚、乳製品など)

**アントシアニン** 免疫細胞IgAを増やし粘膜の健康を維持(黒豆、いんげん豆、ブルーベリーなど)

1つの成分にこだわらず、  
様々な食品を3食で取り入れるようにしましょう。



この他にも免疫を高める食材として【ニンニク・生姜・緑茶(殺菌作用)】【レンコン・リンゴ(抗酸化作用)】【卵・鶏胸肉(体力維持)】【長芋(疲労回復)】などがあります。インスタントや加工食品は控え、季節の食材を摂りましょう。

## がん患者・家族、県民のための公開講座のご案内

- 開催日時 令和7年3月1日(土) 13:00～15:00 ※受付12:30～
- 開催場所 和歌山県立図書館 メディアアートホール
- 講演 「ともに生き、支え合うコミュニティづくり」
- 講師 田村 恵子 氏 京都大学名誉教授  
特定非営利活動法人ともいき京都代表  
がん看護専門看護師
- 講演内容 がん治療の著しい進歩により多くのがん体験者が地域で生活する時代となり、各人が尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築が求められています。私たちは2015年7月より「NPO法人ともいき京都」を設立し、対話を通じた支え合いについて取り組んできました。今後の超高齢社会において、どうすれば病と共に生きる人々が対話を通してお互いの考えや価値に触れ、相手のことを慈しむコミュニティづくりができるのか、みなさまと共に考えたいと思います。
- 参加申込 患者支援センターまでご連絡を。  
TEL.073-441-0778 FAX.073-441-0862 (FAXは専用用紙にて受付)

参加無料



和歌山県立医科大学 がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン 市民公開講座

## がん専門医療人と地域との連携における課題

- 開催日時 令和7年1月25日(土) ※開場12:30～
- 開催場所 和歌山県立医科大学 高度医療人育成センター 5階 大研修室
- 講演 「在宅医療におけるがん患者支援の現状と課題」  
※講演後、地域との医療連携をテーマとしてシンポジウムも実施します。
- 参加申込 不要
- 参加方法 現地会場まで直接お越しください。

参加無料

講演会の  
詳細はこちらZoom  
配信あり

Zoom参加の方は左のQRコードを読み込んでいただくか、Zoomアプリもしくはブラウザからご参加ください。  
■ミーティングID: 951 0154 1797  
■パスコード: 210742



- 講師 長尾 充子 先生  
ユニバーサルケア株式会社  
あるふぁ訪問看護ステーション  
がん看護専門看護師

【連絡先】和歌山県立医科大学 経理課  
〒641-8509 和歌山市紀三井寺811-1 TEL.073-441-0516 FAX.073-441-0706

## マイナ保険証の利用について

2024年12月2日以降、現行の健康保険証は新たに発行されなくなり、マイナンバーカードの健康保険証利用(マイナ保険証)を基本とした仕組みに移行します。お手元の健康保険証は、移行後も最長1年間使用できますが、後期高齢者医療保険加入者の方の有効期限は、2025年7月31日となりますのでご注意ください。

マイナ保険証の利用により、患者さんの同意を得たうえで、医師等が過去のお薬情報、診療情報等を確認でき、治療に役立てることが出来ます。また、高額療養費制度を利用する際の認定証の申請が不要になります。

なお、マイナンバーカードを取得していない方やマイナンバーカードの健康保険証利用登録を行っていない方などは、当分の間、これまでどおり保険診療を受けることができる資格確認書が交付されます。医療機関を受診する際は、マイナ保険証又は資格確認書をご持参ください。



## 掲示板

### 予約センター からの お知らせ

#### ～診察予約のご案内(初めて受診される方へ)～

当院の外来受診は、原則として「診療情報提供書(紹介状)」をお持ちの方による「予約制」とさせていただきます。ご予約は、かかりつけの医療機関等からFAXでお申し込みください。患者さんからの電話による初診予約はお受けできませんので、ご了承ください。

#### ■ ご予約の流れ

- 1 かかりつけの医療機関等から当院所定の「紹介予約申込書」と「診療情報提供書(紹介状)」を予約センターあてにFAX送信してください。診療情報提供書がすぐにご用意できない場合は、予約申込日(かかりつけの医療機関等で予約を行った日)から概ね3日までを目途にFAX送信をお願いします。
- 2 予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信します。夜間・休日の場合は翌平日の対応になります。
- 3 予約当日は、予約票・診療情報提供書(紹介状)・画像データ(必要時)・マイナンバーカード(保険証)・診察券(受診歴のある方)・各種医療券・常用薬・お薬手帳を持参のうえ、各診療科外来受付に直接お越しください。
- 4 予約日の変更は、当院予約センターにご本人からのお電話で受け付けさせていただきます。ただし、検査予約の変更については、当院の代表番号(073-447-2300)から各診療科外来へ平日15:00～17:00におかけください。

#### 予約センター(患者支援センター)

FAX(医療機関専用)・・・073-441-0805  
【受付時間】月・火・水・金…9:00～19:00  
木……………9:00～17:00  
(土・日・祝日・年末年始を除く)

TEL(患者さんから予約変更専用)・・・073-441-0489  
【受付時間】月～金…8:30～16:00(土・日・祝日・年末年始を除く)  
※「痔がんドック」及び「がん検診後の2次検査」の予約については、  
上記予約変更専用番号にてご予約が可能です。

#### 最新の医学・医療カンファランスのお知らせ

令和6年度第10回市民公開講座を下記の通り開催します。医学・医療に関する専門的知識は必要ありませんので、興味のある方は、ぜひご参加ください。

- 開催日 令和7年3月6日(木) 14:00～16:00
- 会場 本学 紀三井寺キャンパス 図書館棟3階 研修室
- 内容 講演Ⅰ 『運動のススメー元気に長生きするためにー』  
講演Ⅱ 『がんと診断されたときからはじまる「緩和ケア」』

#### 【申し込み・問い合わせ】

生涯研修センター  
TEL.073-441-0789/FAX.073-441-0713  
定員は先着30名まで  
申し込み締切:令和7年2月13日(木)まで

#### 患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

1. 個人として尊厳と人格が尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
2. 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
3. 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
4. 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
5. 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

#### 患者さんへのお願い

当院では、さまざまな医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

1. 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
2. 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
3. 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
4. すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
5. 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願いいたします。
6. 医師、看護職員、病院職員に対する謝礼、贈答品は固くお断りしています。

#### 和歌山県立医科大学附属病院広報誌「まんだらげ」(vol.71)

2025年1月発行 発行/和歌山県立医科大学附属病院  
〒641-8510 和歌山市紀三井寺811-1

TEL 073-447-2300  
FAX 073-441-0706

ホームページアドレス  
<https://www.wakayama-med.ac.jp/hospital>  
「まんだらげ」はホームページからもご覧いただけます。



#### — 外来受付時間 —

- 受付時間:午前8時50分～午前11時30分
  - 再診で予約のある方は指定時間(予約票の記載時間)
  - 休診日:土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
- ※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。

次号発行は  
2025年  
4月です。